



## 南千住と共に歩んだ大澤家

「馬に一晚中乗りつ放しで辛かった」

大澤長次さん（明治41年～昭和42年）

は20歳で出

征し、25歳

で陸軍軍曹

になりました

た。支那事

変をはじめ、

4回出征し

ては戻り、

最後の勤務

地は、内地

の茨城県東

海村でした。戦前には金鵒勲章を貰い、

新聞にも掲載されました。戦後も金鵒勲

章功労章の銀杯を貰いましたが、色々な

思いがあったのでしょうか。長次さんは、

戦争について語ったのは、このひと言だ

けでした。長次さんの出征の記録は、軍

人の戸籍である軍隊手帳に記載されてい

ます。

「大東京の名前は、東京市になって

東京が大きくなるだろうと付けたよ

うですよ。」

北豊島郡から東京市になった南千住コ

ツ通りに外食券食堂として「大東京」を

興したのは昭和5年（1930）、長次さんが

23歳の時です。



支那事変（昭和12年（1937））

「明治生まれの女性でしたからね。」

不在がちな長次さんに代わり、双子の一

也さんと不二男さんを含め七人の子供と店

を守ったのは、奉公人さんと奥さんの千代

さんです。千代さんは、縁の下の力持ちと

して戦禍を生き抜きました。

東京大空襲でコツ通りは壊滅し、終戦後

に復員した長次さんは、現在の柳通りの裏

に高橋造船所などから古材を貰い、掘っ立

て小屋を建て、野菜を作ることから始めま

した。落ち着いてからは、委託加工の製麺

・精米・製粉の工場をはじめました。

「ふすまのパンを作っていました」

その後、コツ通りに土地を買って戻り、

居酒屋さんを開業しお寿司もはじめました。

「従業員は10人はいましたね」

女中さんは8人に板前さんが2人おり、

ほかに出前持ちの人もいました。女中さん

達には、お揃いの浴衣や着物を作っていま

した。大東京の他に吉田屋さん、つた屋さ

ん、小松さん、幸寿司さんにはお座敷があ

りました。昭和35年の写真には、大東京の

座敷で芸者さん達が

写っています。

「昼に百人、夜に百人」

正月の2日3日に

は、2升を10回炊い

てフル稼働で出前も

していました。宴会

があると、一日で2

百人のお客様があり、暮れや正月には食器

の洗いが大変でした。

二代目の一也さんの奥さんのムツ子さん

が嫁いで来たばかりの時は、アルミの大き

な盆に瀬戸物の料理の入った鉢を並べると

重くて持てなかつたそうです。それを持ち、

着物姿で階段を昇り降りには重労働でした。

高度成長期には、鐘紡・日紡や日本通運

などの通運会社4社や東京ガス・南千住製

作所・千住製紙所・日立（修工舎）・ニュー

トーキョー・名鉄等の大手の企業が南千住

にはあり、会社の接待に使われ、支払いは

現金払いでなく、ほとんど会社締めでした。

栗友亭があったころにはWケンジやコロ

ンビアトップライトなど、多くの有名人が

大東京の味を楽しみました。

時代が変わり、大手の企業が撤退し、スー

パ・コンビニでお寿司が買える時代になり

ました。82年間3代続いた大東京も昨年3

月に幕を閉じました。

◇命だっけいつか終わりがくる。でもわた

したちが出会って、一緒に過ごした時間が

消えてなくなるわけじゃない。

きむらゆういち（童話作家）

時代の流れと共に歩んだ大澤家の歴史は、

一也さんの取り続けた写真に記憶が記録と

して残されています。

皆さんのアルバムをひも解いて見ませ

か。そこから、家族の歴史が解明されま

す。古いアルバムをお持ちの方、ぜひご連絡

ください。懐かしい歴史を保存しませんか。

